

Ⅲ-2

各教科等を合わせた指導とは

(1) 各教科等を合わせた指導とは

各教科等を合わせて指導を行う場合とは、各教科、道徳科、特別活動、自立活動及び小学部においては外国語活動の一部又は全部を合わせて指導を行うことをいいます。

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが効果的であることから、従前から、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などとして実践されてきており、それらは「各教科等を合わせた指導」と呼ばれています。

まとまりのある一つの活動を体験させ、興味・関心、満足度や成就感を大切にしながら、結果として、それぞれの教科等の内容を学習するのが「各教科等を合わせた指導」です。

なお、「各教科等を合わせた指導」の中で、「総合的な学習の時間」を合わせて指導することはできません。詳しくは右のQRコードから資料をご参照ください。



(2) 各指導の形態について（例）

日常生活の指導

日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動について、知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等を踏まえながら計画的に指導するものです。

遊びの指導

遊びの指導は、主に小学部段階において、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくものです。

生活単元学習

生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実践的・総合的に学習するものです。



生活単元学習では、広範囲に各教科等の目標や内容が扱われます。指導に当たって、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織することが大切です。

作業学習

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものです。

(3) 各教科等を合わせた指導についてのポイント

各教科等を合わせた指導を行う際に、大事なポイントを下記にまとめました。

○ 各教科等を合わせた指導の根拠



各教科等を合わせた指導を行うことができる根拠は何ですか？

学校教育法施行規則第130条第2項に、法的な根拠が示されています。特別支援学級においては、この規定を参考にすることになります。



特別支援学校の小学部、中学部又は高等部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

【学校教育法施行規則第130条第2項】

○ 各教科等を合わせた指導の必要性



なぜ各教科等を合わせた指導を行うのですか？

知的障がいのある児童生徒の学習上の特性として、以下のようなことが挙げられ、児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいくことが有効であると考えられているためです。



【知的障がいのある児童生徒の学習上の特性】

- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。
- 学習によって得た知識や技能を実際の生活の場面の中で生かすことが難しい。
- 成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことが多い。

○ 指導計画を立てるポイント



指導計画を立てる上で大切なことは何ですか？

各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標の達成を目指すことから、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となります。



○ 授業時数について



授業時数はどのくらい設定すればよいですか？

指導に要する授業時数をあらかじめ算定し、関連する教科等を教科等別に指導する場合の授業時数の合計と概ね一致するように計画する必要があります。



○ 学習評価について



学習評価をする上で留意点がありますか？

教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要です。



活動例①

生活単元学習「1年生を迎える会をしよう」

小学校の知的障がい特別支援学級における生活単元学習の活動例です。単元「1年生を迎える会をしよう」（全8時間）の5時間目の本時案における学習展開の一部です。

《学習指導案》 題材名「ダンスの練習をしよう」（5／8時間目）

学習過程	学習内容	指導方法	各教科等の内容
導入	1 学習内容の確認 ○ 「1年生を迎える会」で、1年生と楽しくダンスを踊るためのポイントを学ぶことを知る。	・ 本時の課題を理解できるように、イラストや写真等を使ったり、文字にしたりして説明する。	・ 自立活動：学習内容に見通しをもつ。
展開	2 ダンスの練習 ○ 1年生がダンスを楽しめるためのポイントを考える。 ・ 踊り方の見本を見せる。 ・ 6年生と1年生をペアにする。 ・ はじめはゆっくり踊る。 など ○ ポイントを押さえて踊る。 ・ 1年生と楽しくダンスを踊るためのポイントを意識しながら踊る。	・ 歓迎会であることから、楽しませることを伝える。 ・ ポイントが思い浮かばない場合は、自分が踊って難しかったところを考えるなど、ヒントを与える。 ・ 教員は1年生役をし、わからない動きで対応する。	・ 自立活動：相手の動きに合わせて考えたり話し合ったりする。 ・ 体育：曲に合わせてリズムよく踊る。 ・ 自立活動：相手の動きに合わせて
終末	3 振り返り ○ 学んだことを振り返る。 ・ 自分が一番気を付けることを発表する。	・ 口頭で発表できない場合は、教員が1年生役をして踊って見せる。	・ 国語：聞き手に分かるように発表する。

○ 学習への意欲的な参加を促す。

○ 児童によって支援の方法を最適化する。

○ 各教科等の内容を位置付ける。

活動例②

作業学習「販売会に向けて製品を作ろう」

中学校の知的障がい特別支援学級における作業学習（紙工班）の活動例です。単元「販売会に向けて製品を作ろう」（12～44時間目／全50時間）の本時案における学習展開の一部です。

《学習指導案》 題材名「目標に向けて取り組もう」

学習過程	学習内容	指導方法	各教科等の内容
導入	1 学習内容の確認 ○ 本時の達成目標を発表する。 ・ 完成品の目標個数と、作業で気を付けることを発表する。	・ できるだけ自ら達成目標を決定するよう関わる。自己決定が難しい場合は教員が調整する。	・ 自立活動：学習内容に見通しを持つ。 ・ 国語：自分の考えを発表する。
展開	2 作業 ○ 担当の作業に取り組む。 ・ 設定された回数や時間、量などに応じて製品を作る。 ○ 掃除 ・ 汚れやごみに合わせた掃除をする。	・ 時間いっぱい意欲的に取り組めるよう、適宜言葉掛けをする。 ・ 安全面に気を付ける。	・ 職業・家庭：作業に関する知識・技能を身に付ける。 ・ 数学：完成品の数を数える。 ・ 特別活動：清掃道具を正しく扱う。
終末	3 振り返り ○ 報告をする。 ・ 目標個数の達成状況と、作業で気を付けることが守れたか報告する。	・ 本日の達成状況に加え、累計を計算できるよう、各自の方法で支援する。	・ 国語：内容を整理してから伝える。

○ 生徒の働く意欲を培う。

○ 位置付けた各教科等の内容に応じて評価する。